

エドウィンO. ライシャワー（元駐日米国大使&ハーバード大学名誉教授&日本交渉学会初代名誉会長）と日本交渉学会との関係について

Edwin O. Reischauer(Former U.S. Ambassador to Japan under the Keneddy Administration, Professor Emeritus at Harvard University and the first Honorary Chairman of Japan Institute of Negotiation)

ライシャワー教授と日本交渉学会の名誉会長になられて経緯であるが、それは1989年9月に北海道入りをされた時に遡ることができる。9月18日にライシャワー教授はハル夫人を伴って来道され9月20日と21の両日、京王プラザホテルで開催された第2回日本交渉学会全国大会のオープニングセレモニーで名誉会長就任の記念講演をされた。

北海道全国大会は当時の会長であった藤田 忠ICU教授（現2代名誉会長）の挨拶で幕が開き、その後ライシャワー教授がメインテーマ「アジア太平洋時代の交渉力」に関連する見事な講演をされ、「交渉による紛争解決の重要性を強調」され会場に詰めかけた2000人以上の参加者から絶大な割れんばかりの拍手が続いた。なおこの講演が、ライシャワー教授の最後の公式講演となる。

続いてライシャワー教授のハーバード時代の教え子である有馬竜夫氏（日本政府代表大使）の「これからの日米関係」も講演された。 加えて本学会の顧問である木村汎（北大スラブ研究所名誉教授・日本国際文化研究センター名誉教授）、それに小島武（中央大学法学部教授で横浜桐蔭大学学長）、大成節夫（一橋大学教授、現在名誉教授）の研究発表もあり大変充実した全国大会となった。中尾光弘本学理事が大会の祝賀会も計画され成功裏に終わった。

当時の手帳を紐どいてみると、9月19日にはトマムにあるトマム・リゾート・ホテルで午前10時からテレビ北海道開局記念特別番組『ライシャワーと北海道』の録画撮りが行われた。この特別記念番組は、当時のテレビ北海道の伊藤 義郎社長（北海道日米協会会長）の計らいで実現したことも忘れてはならない。番組にはライシャワー教授とハル夫人、それに書道家でハーバード大学でも書道の客員教授を務めたことのある小川東洲氏が出演され、通訳は現会長の御手洗 昭治先生が務められた。

北海道滞在期間中に、ライシャワー教授とハル夫人は、北海道新聞社でのインタビューにも応じられ、インタビューの様子と内容は、翌日の朝刊のトップ記事として報じられた。また、北海道電力の戸田社長のお招きで、昼食会后、北海道電力も訪問されたことになっている。また、9月19日には北海道日米協会の午餐会にも出席され「北海道に来ると、故郷マサチューセッツ州に戻った感じがします。。。」とユーモアを交えたスピーチをされ参加者全員が魅了された。

それ以後、ライシャワー教授と日本交渉学会の関係が続くことになる。惜しくもライシャワー先生は、1990年カリフォルニア州の避暑地であるラホヤで肝硬変が原因で死去され、尊厳死第一号となられた。本学会でもライシャワー名誉教授追悼記念号を出版した。先生は死去されたが、先生が交渉学会に残された お言葉や記録、その他の遺産や思い出は今でも学会員の宝であり誇りでもある。「世界は少なくとも現実的には一つになった。この種の世界では、その構成員は巧みな、かす優れた交渉力を身につけなければならない (E.O.ライシャワー,1989年 9月 20日) The world has at least really become one. We have to have great skill at negotiating with each other in this kind of world.”by Edwin O. Reischauer

エドウィン O. ライシャワー (Edwin O.Reischauer) 氏の略歴

1910年10月15日～1990年9月1日

東京に生まれる。宣教師であり明治学院大学でも教鞭を取った父、オーガスト・ライシャワーの仕事の関係で、16歳まで日本に在住。オバリン大学卒業後、ハーバード大学大学院博士課程卒 (Ph.D.取得)。

ハーバード大学院時代にフランス、北京、京都にハーバード大の奨学生として留学し学者の道を歩む。

第2次大戦中は、米国国務省・陸軍省で対日政策、占領政策の立案などに関わる。大戦後は、ハーバード大学に戻り、アジア研究、特に日本研究の第一人者として多大な業績を上げた。1956年に総理大臣を務めた松方正義の孫のハル夫人と結婚する。1961年4月、ケネディ大統領の要請で駐日米国大使として着任。以後1966年7月の離任まで約5年にわたり、日本のあらゆる階層の人とダイアログを通して接し、日米安保、ベトナム戦争という日米の厳しい時代に、日米間の相互理解を深めるため多大な貢献を果たし、「日米はイコール・パートナーである」と強調し続けたことは、あまりにも有名。64年には、刺傷事件に遭遇し重症を負ったが、日米関係の事を配慮し「日本の人の輸血のお陰で、日本人になったな気分です」と、事件を政治問題にしなかつた事でも有名である。大使辞任後はハーバード大学に戻り、81年に名誉教授となる。国際社会における日米関係の重要性を説き、日本の良き理解者であった。

「交渉と対話を通しての紛争解決が必要」というのもライシャワー教授の持論であった。そのこともあり、1989年9月に札幌の京王プラザホテルで開催された「第2回日本交渉学会北海道大会」に初代名誉会長に就任。ハル夫人を伴ってのライシャワー教授最後の記念講演をされ、21世紀における交渉学の重要性を強調されたことは、今でも我々の記憶に新しい。テレビ北海道開局記念番組「ライシャワーと北海道」も製作され、同年10に放映される。